

協働学習 児童生徒実践型

実践タイトル 映像と言葉の往復で修正点を分かりやすく

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

デジタルカメラ
プロジェクター

- ・動画（ハイスピードを含む）が簡単に撮影でき、すぐに、その場で再生して、自分の動きを確認する。
- ・プロジェクターで投映し互いの動きを指摘し合う。

動画

- ・自分の動きを動画で撮影することで、客観的に技の出来映えを把握し、技能の向上に役立てることができる。
- ・仲間の努力やよい演技を認めようとする。
- ・学習する技の合理的な動きのポイントを見つける。

参考にしてほしいポイント

- ・マット運動の微速度動画を生徒同士で見ながら、よい動き方や過大となる動き方をすぐに指摘し合え、態度や知識、思考、判断の学習が充実し、技能の向上にも役立つ。
- ・PCを介さず、デジカメとプロジェクターをケーブル1本で直結し、すぐに映し出せる良さがある。また、機器の準備や操作も非常に簡単なので、無理なく継続的な活用が可能である。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 10	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、準備運動 ・準備 ・本時の学習内容の確認 倒立、補助倒立前転を中心に行う。 補助の仕方を理解する。 	
展開 10 45	<ul style="list-style-type: none"> ・壁倒立、補助倒立前転の体慣らしをする。 前転、後転をする。 ・本時の技能をグループごとに練習する。 壁倒立、補助倒立前転。 互いに補助をしたり、教え合ったりする。 技能について互いに評価する。 上達の様子などを学習カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラ（ハイスピード撮影が可能な機種） ・プロジェクター（写真1～3）
まとめ 45 50	<ul style="list-style-type: none"> ・後片付けをする。 ・本時の成果を学習カードに記入する。 ・次時の予告 	



写真1: デジタルカメラを使い、撮影の視点を持ちながら撮り合う



写真2: 映したらすぐに再生し、互いに動きをチェックする



写真3: 先生も交えて、技能の点検と修正アドバイスを行う

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・できているつもり自分と、画面の中の実際の自分のギャップを客観的に比べることができた。そのことで目標が明確になり、技能の向上にむけて練習に励む姿が見られた。機器操作にはすぐに慣れ、ICT機器を使うことが目的ではなく、手段になっていた。そのため、撮影したものを見る時間よりも、実際に何度も、自分でマット運動をする時間の方が長くなった。

活用効果

<p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康・安全への関心・意欲・態度 ・運動や健康・安全への思考・判断 	<p>具体的変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の技能を認め、励ましながら積極的に学習に関わることができた。 ・練習の進め方や技能の完成度について確かめることができた。
--	---

実践の手応え

- ・自分の技能が客観的に確認できることと、機器の活用が非常に手軽だということ。また、1つの画面をグループで見ること、生徒同士の関わり合いにも良い意味で影響があった。